

銀杏 《 愛校 自主自律 》

南陽市立宮内中学校 学校だより

<http://miyatyu.sakura.ne.jp/>

生徒会スローガン「志」を本物にする 2学期のスタートです！

26日間の夏季休業もあっという間に過ぎ去り、8月17日（火）から2学期を迎えました。全国的な新型コロナの拡大・蔓延とともに大雨による土砂災害被害等が心配される中ですが、2学期始業式では、宮中生の爽やかでやる気に満ち溢れた笑顔がそろっていました。また、3年色摩修平君、2年大木光さん、1年松浦悠真君が各学年の代表として、2学期への決意を堂々と述べてくれました。それを聞く宮中生は、背筋をピンと伸ばし、真剣な眼差しで耳を傾けており、2学期の活躍がますます楽しみになりました。

式辞では、今日から90日間に渡る2学期、体育館東側壁面に掲げられた生徒会スローガン「志」を本物にするために命を吹き込むこととお話ししました。

3年生には、進路実現や学校行事の成功などに向けてどのように向き合い、そして創志学年として団結力と行動力を後輩への良き手本として確実に伝えること。2年生には、これからの宮中を背負って立つため、どう考え行動すべきかを3年生から学び、1年生をどう育てるか、その上で、最上級生となるための準備を万全にする2学期であること。1年生には、改めて「文武両道」を2、3年生から学び取ること……を大切にしてください。

これらのことに共通することは「自分の殻を破る」ということです。一人一人の「志」が大きくなるとなると学校を創り上げられます。235名の大きい成長を期待しています！！



宮中健児の活躍がさらに光った、県中総体・東北大会！！

この夏休み中、県中学校総合大会や東北大会が各競技会場で行われました。ほとんどが無観客での開催となりましたが、大会報告でもそれぞれの顧問の先生方からも、「今までで一番いいゲームであった」との話を伺うことができました。これまでに培った力や心をこれからは生かすとともに、その伝統を後輩がしっかりと受け継いでほしいと思います。

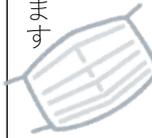
< 県中総体結果 >

- 第3位:男子バスケットボール
- 第3位:ソフトテニス男子個人
吉田蒼真・菅野俊輔[△]
(東北大会出場)
- 第3位:ソフトテニス女子個人
鈴木琴菜・山田蒼子[△]
(東北大会出場)



引き続き、1日1課の対策をお願います

連日のマスコミ報道にもある通り、全国的に新型コロナウイルスの感染拡大が広がっている状況にあります。「緊急事態宣言」の延長や対象地域の拡大も決定され、今後の学校・家庭生活への影響が心配されます。本校でも、引き続き、マスク着用、検温やこまめな手指消毒、換気等の基本的な対策の徹底を大事にしながらか教育活動を進めてまいります。ご家庭におかれましても、体調不良や気になることがあれば、すぐにお知らせください。みんなでこの難局を乗り越えたいと思います



学力向上に向け、万全の準備を！！

今日18日(水)に、課題テストが行われ、ホッと一息つきたいところですが、学問こそ中学生の本分！9月16日(木)に予定されている前期期末テストに向けて、すぐに準備に取り掛からなければなりません。3年生にとっては、進路実現に直結する重要なテストになります。計画的かつ主体的な姿で臨んでください。学習指導担当の須貝先生のお話にあった、①授業を大切に。②家庭学習を毎日行う。③テストには万全の準備をして全力で臨む。を、確実に実践することで、必ず学力向上につながります。その上で、誰にも遠慮することなく、職員室でもどこでも「ねっちょ」に質問する宮中生の向学心に期待しています！！



お帰りなさい“佐竹先生”・・・これからもよろしくお願いたします！！

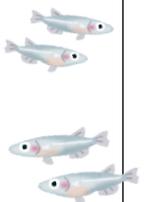
これまで、育児休暇を取得されていた“佐竹祥子”先生が、この8月より復帰なされ、再び熱いご指導をいただくことになりました。佐竹先生は、続けてお二人のお子様を授かり、久しぶりの現場復帰となりましたが、持ち前の明るさとエネルギッシュなフットワークで職員室にも新たな風を吹き込んでくださっています。

佐竹先生には、3年生の保健体育を中心にご指導をいただき、陸上部顧問としても活躍いただきます。どうぞ、よろしくお願いたします！！



【校長の独り言・・・】

あんなに暑かった夏休みもあつと間に終わり、涼しい中で二期が始まりました。昨日の二期始業式でもお話ししましたが、この間、私の新たな挑戦として、青メダカの飼育を始めました。初めは数ミリの大きさだった「チビ助」たちでしたが、今では2センチほどに・・・心の癒しにもなり、これからの成長がますます楽しみです。



さて、八月十七日付の山形新聞「ワイド地域版」に、ミニ四駆を活用して地域活性化を目指す「金山若者グループ」の記事が掲載されました。コロナ禍において、子どもたちが集うことも制限されることが多くなっていますが、記事のタイトルにもあるように「自慢のマシンで対決」できる場を提供するため、さまざまな苦勞を乗り越えて開催されたことと拝察いたしました。ミニ四駆と言えば、自分にとっても懐かしい思い出が沢山あります。子どもたちにとっても、ワクワクする思いを大きく膨らませて、楽しむことができたイベントであったと思います。

本校も含め、南陽市では「地域総合型教育」に取り組み、小中学校だけでなく、地域にあるさまざまな教育力を連携・連動・一体化させながら、地域総ぐるみになって人づくりを進める教育実践に努めています。

やがて、社会の担い手となる宮中生が、地域の先輩方の思いや願いを受け継ぎ、南陽市の活性化の先頭を走り、そして地域の方々から頼られる存在に育っていくことを願っています。

